

高齢期における介護—被介護関係に関する研究 I

---介護による成長感と、老いと死の受容過程の分析---

○岡本祐子*, 三崎いづみ** (*広島大教育, **東洋大附属姫路高)

【目的】①高齢者の介護者が、介護役割を通じて体験する発達の側面とそれに関連する要因を検討する。②介護の中で体験される介護役割および老いと死の受容過程を明らかにする。

【方法】対象者：Ⅰ在宅介護者群、Ⅱ高齢者施設職員群、Ⅲ介護体験のない一般人群、計122名。

方法：A介護による成長感、Bアイデンティティ意識、C介護に対する感情、D被介護者への接し方、E被介護者の人生の受けとめ方に関する57項目からなる質問紙。つづいて、Ⅰ群の対象者から10名を選択して面接調査を行った。

【結果と考察】①Ⅰ~Ⅲ群間の「成長感」得点には有意差は見られなかった。しかし、Ⅰ在宅介護者群の得点には個人差が大きかった。②そのため、介護体験のあるⅠ・Ⅱ群のみを対象として成長感の程度とB~Eの関連性を検討したところ、成長感に関連する要因として、介護者のアイデンティティ意識、介護に対する肯定的感情、被介護者の人生の受容、が示唆された。

③介護者の介護役割および、老いと死の受容プロセスには、『衝撃⇒否認⇒怒り⇒抑うつ⇒受容⇒目標⇒昇華』という特徴的なプロセスが見出された。